

第1回 新居浜市政策懇談会 第3分科会（経済再生） 議事録

日時 平成28年7月6日（水）15:00～

場所 市役所6階 議員全員協議会室

議題	発言者	議事、発言内容
開会		
経済部長あいさつ	鴻上経済部長	
委員長あいさつ	曾我部委員長	
分科会での検討内容等について	事務局	<p>資料「平成28年度 新居浜市政策懇談会活動内容」に基づいて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全20事業について、政策懇談会提言事業評価シートに基づき、成果検証や改善点、平成29年度に向けた方針などを分科会で検討。</li> <li>・事業数が多いことから、成果検証や改善点、平成29年度に向けた方針については事務局案を、事業内容に合わせて説明。</li> <li>・第2回分科会では、改善点や方針をまとめたい。</li> <li>・新たな取り組み内容の検討とは、全く新しい事業というわけではなく、20事業において、新たな取り組みを行うことで、更なる効果が見込まれるものについて提案、検討を行う。第2回分科会でも検討予定</li> </ul>
平成25年度提言事業（1～4）の内容について説明	事務局	政策懇談会事業評価シート（26-1～4）に基づいて説明
平成25年度提言事業（1～4）の内容について質問	委員	<p>&lt;26-1について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標設置棟数を下回りとなるが、認定業者は当該施策を知っているのか。</li> <li>・川下の販売先の確保ができていないから、生産に踏み切れないということもあるのでは</li> <li>・利用率が低い原因を確定した上で、取り組まなければ目的達成にはつながらないのでは</li> <li>・市内の認定業者数と利用者数は？</li> </ul>
	高岸農林水産課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定業者数は、法人が6、個人が27の計33経営体。認定業者が少ないこともあり、全業者に周知は</li> </ul>

		<p>している。農協の地区別懇談会等各種会を通じて、農協から制度の広報はお願いしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウスを設置した認定農業者は平成 26 年が 4 名、平成 27 年が 1 名。</li> <li>・去年の少なかった原因の確定はできていない。広報は十分できていたが、個々のタイミングが合わなかったため利用率が低かったと考えている。</li> </ul>
	委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新居浜は第 2 種兼業農家が主体。</li> <li>・野菜は市外から市内へ逆輸入している。</li> <li>・農家にとって、作った作物が一定の適正な価格で売ることができないと作りにくい。</li> <li>・この施策は新居浜にとって大切なので、行政は問題意識を持って、しっかり取り組んでほしい。</li> </ul> <p>&lt;26-2 について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 26 年度作業実績 3.76ha、平成 27 年度作業実績 10.41ha とあるが、1 年に何回行っているのか？</li> <li>・耕作放棄地解消は手段であり、目的は耕作放棄地の有効活用。</li> <li>・耕起作業のような対処療法的施策だけではなく、目的達成に向けた有効な仕組みづくりが必要。</li> </ul>
	高岸農林水産課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度は 79 件の作業を行った。</li> <li>・耕作放棄地の担い手や跡継ぎがないという状況の中で、農業委員会の利用権設定や 2 年前に設立した県主導の農地中間管理機構の耕作放棄地を減らす取組等もある。</li> <li>・新居浜市は利用権設定もあまり活用されておらず、特に農地中間管理機構については、実績が全くない状態である。</li> <li>・市内土地所有者は中々土地を貸さないという傾向も関係して耕作放棄地の削減は進んでいない。</li> <li>・耕起作業後の手当も大切だと思っている。農協などと協議の上、適切なあり方を考えていく。</li> </ul>
	委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 28 年度の農協の動きについて説明する。</li> <li>・総代会などでも、耕作放棄地の除草のみでは解消にはつながっていないという意見を受ける。</li> <li>・今年度、検討中の農協の耕作放棄地削減策としては、</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励野菜を選定（いよ美人、キウイ、赤シソ）</li> <li>・地区単位 2、30 人で遊休農地を借り上げ、米や野菜を作る集落営農（周桑地区が成功している）</li> <li>・中央会がとりまとめを行い、全農、愛大と新居浜市における特産品を作っている</li> </ul>
平成 25 年度提言事業（5～12）の内容について説明	事務局	政策懇談会事業評価シート（26-5～12）に基づいて説明
平成 25 年度提言事業（5～12）の内容について質問	委員	<p>&lt;26-10 について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 27 年度、28 年度予算額が二段になっているのはなぜか？</li> </ul>
	黒下産業振興課長	・上段は当初予算、下段カッコ内は補正予算。
	委員	・事業内容も増やしたのか？
	宮崎主幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 27 年度予算について、補正予算で追加事業を行うと方針を変え増額。</li> <li>・具体的には海外へ向けて HP の英訳や英語版パンフレットの作成を行った。その外にも細かい事業を増やした。</li> </ul>
	委員	・事業内容も増やしたということですね。
	委員	<p>&lt;26-11 について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内に新たに立地しようという市外企業がいる中、新たな工業用地を作る考え方はどのようなものか？</li> </ul>
	宮崎主幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 1 工区、第 2 工区については、平成 23 年、24 年の庁内での審議の結果、造成を進めてきた。</li> <li>・第 2 工区については平成 28 年度、29 年度夏には造成完了予定。その後分譲したい。</li> <li>・次期について、今年度中にはどこを重点的に行うか決定したい。</li> </ul>
	委員	・ぜひスピード感を持って取り組んでほしい。水面下では一定以上の面積を必要としている企業もあるという話もある。
平成 26 年度提言事業（1～8）についての説明	事務局	政策懇談会事業評価シート（27-1～8）に基づいて説明

平成 26 年度提言 事業（1～8）につ いての質問	委員	<27-4 について> ・申請予定件数 5 件程度とあるが、予定とはどういう 意味か。要件を満たしていないという意味か。
	赤尾産業戦略監	・問い合わせは 5 件という意味。一年以上勤務という 要件を満たしてからの申請。
	委員	<27-7 について> ・どの事業が多かったのか？バラツキはあるのか
	黒下産業振興課長	・先端機器が一番多かった。 ・実績を申し上げると、共同化事業 0 件、共同施設設 置事業 2 件、事業所設置 1 件、事業所貸借事業 3 件、空き店舗活用 1 件、新製品開発 2 件、共同研究 1 件、倒産防止対策 18 件、人材養成 16 件、市場開 拓 10 件、先端機器 15 件、雇用促進 19 件、福利厚 生 0 件、退職金共済 1 件
	委員	・申請の多いものだけでも特別な予算措置をする必要 があるのでは？
	黒下産業振興課長	・申請件数に応じて、補正予算を組んでいる。
	委員	<27-4 について> ・周知方法は？
	赤尾産業戦略監	・市の HP での広報が行っているが、周知は十分では ないと思っている。市内企業への PR について、工 夫しながら周知しなければいけないと思っている。
	委員	・市内企業に対する補助の次には、市外県外に向けた 対策も重要になってくるのでは？
	赤尾産業戦略監	・検討する
次回分科会につい て連絡事項	事務局	
閉会	曾我部委員長	